



令和4年(2022年)第23週 2022年6月6日(月)~2022年6月12日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●日本紅斑熱

県内では日本紅斑熱は春~秋にかけて発生が多い傾向があります。病原体(リケッチア)を保有するマダニに咬まれることで感染するため、マダニに咬まれないようにすることが最も重要です。

・**潜伏期間**…2~8日・**治療**…早期に疑い適切な抗菌薬を投与することが極めて重要です。・**症状**…頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症します。発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられます。

◆マダニに咬まれないために

①草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、**肌露出を少なくすることが大切です。**

・長袖・長ズボン(シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる)、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等対策しましょう。

・服は、明るい色のもの(マダニを目視で確認しやすい)がお勧めです。

・ディートやイカリジンという成分を含む虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われています。(記載された使用上の注意を守って使用してください。)

②野外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

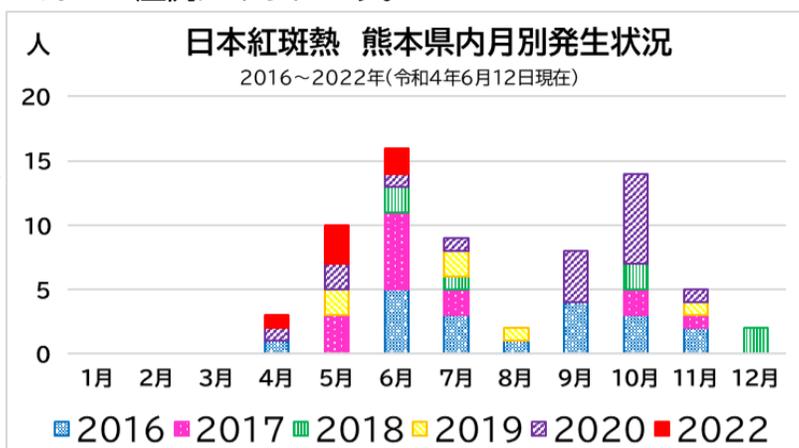
・特に、首、耳、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏などがポイントです。

・活動後早めに入浴し、マダニが付着していないか確認しましょう。

③吸血しているマダニは、皮膚科などを受診して除去してもらって下さい。

・吸血中のマダニを見つけた場合は、自分で取ろうとせず、できるだけ医療機関(皮膚科)で処置しましょう。(無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまい化膿することがあります。)

・咬まれた後、**数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の異常が見られたら医療機関で診察を受けてください。**



| 期 間 | | 2022年 22週 | | 2022年 23週 | |
|------------------|-------|-----------|------|--------------|------|
| | | 5/30~6/5 | | 6/6~6/12(最新) | |
| 疾患名 | 疾患の増減 | 報告数 | 定点当り | 報告数 | 定点当り |
| インフルエンザ | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| RSウイルス感染症 | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| 咽頭結膜熱(プール熱) | ➡ | 4 | 0.25 | 3 | 0.19 |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | ➡ | 7 | 0.44 | 2 | 0.13 |
| 感染性胃腸炎 | ⚠️➡ | 102 | 6.38 | 119 | 7.44 |
| 水痘(みずぼうそう) | ➡ | 0 | 0.00 | 1 | 0.06 |
| 手足口病 | ➡ | 3 | 0.19 | 3 | 0.19 |
| 伝染性紅斑(りんご病) | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| 突発性発しん | ➡ | 9 | 0.56 | 10 | 0.63 |
| ヘルパンギーナ | ➡ | 1 | 0.06 | 0 | 0.00 |
| 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| 急性出血性結膜炎 | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| 流行性角結膜炎(はやり目) | ➡ | 0 | 0.00 | 3 | 0.60 |
| 細菌性髄膜炎 | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| 無菌性髄膜炎 | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| マイコプラズマ肺炎 | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| クラミジア肺炎(オウム病を除く) | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | ➡ | 0 | 0.00 | 0 | 0.00 |

⚠️ 記号の意味…注意、増加中または今後増加の可能性がある